

2-2. 普天間飛行場の跡地を考える若手の会、地権者への取組み

取組み方針①：組織強化を目指して既存会員の掘り起しを適宜行うとともに、若い世代の人材育成を行う。

取組み方針②：対外的に組織を説明する際のツールとして会則を作成し、組織の基盤固めを行う。

取組み方針③：地権者に対し、全体計画の中間取りまとめ（第2回）の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。

（1）若手の会の定例会活動支援

1）取組み概要

昨年度の定例会において決定した今年度の検討テーマである「周辺市街地との連携」について検討を行った。

周辺のまちとの連携・連続性の確保が必要なことや、跡地の新しいまちづくりの効果が周辺に波及することの意見を集め、それを実現するために、今から周辺市街地を活用した取組みについて、地権者及びまちづくりの視点を踏まえとりまとめた。

また、若手の会の組織の基盤固めを行うために、会則を作成することで、若手の会の活動目的や位置づけ等の対外的な説明が容易となり、新規会員募集にあたり、会の目的を明確に示すことができるものと考え、会則案を提示し意見交換を行った。

2）取組みスケジュール

No	開催日	議題
1	6月14日	・今年度の検討の進め方について
2	7月12日	・はごろも祭りブース出展について ・先進地視察会について
3	8月9日	・先進地視察会について ・周辺市街地との連携について ・はごろも祭りブース出展について
4	9月13日	・先進地視察会について ・周辺市街地との連携について ・パネル展の開催検討について ・若手の会の会則作成について

No	開催日	議題
5	10月11日	・先進地視察会について ・周辺市街地との連携について ・地権者意見交換会について ・若手の会の会則作成について
6	11月8日	・先進地視察会について ・地権者意見交換会について ・周辺市街地との連携について
7	12月13日	・周辺市街地との連携について
8	1月10日	・周辺市街地との連携について ・若手の会の会則作成について
9	2月14日	・周辺市街地との連携について ・次年度の取組みについて ・若手の会の会則作成について
10	3月14日	・次年度の取組みについて ・若手の会の会則作成について



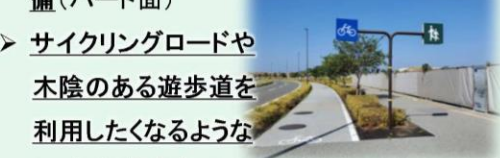
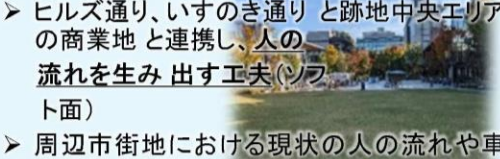
写真：定例会の様子①

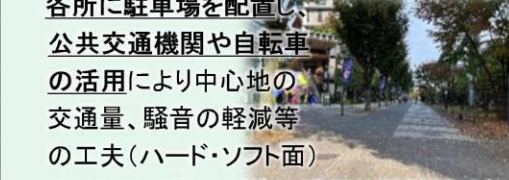


写真：定例会の様子②

3) 周辺市街地との連携に対する若手の会の考え

周辺のまちとの連続性・一体性

「周辺市街地との連携」に関する若手の会の考え				
周辺市街地との連携の要素	今から考えられること	今から取組めること	他の計画との整合	計画内容の具体化との関連性
緑の中のまち ➢ 普天間飛行場周辺にある多くの公園と普天間飛行場跡地から創出されるみどりは連続性を持ち、緑のネットワークを作りたい。 ➢ サイクリングロードや遊歩道など、大規模公園とのつながりがあればよい。(地権者) ➢ 普天間飛行場縁辺部の土地利用と連続性をたもちたい。	➢ サイクリングロードや木陰のある遊歩道を整備(ハード面) ➢ サイクリングロードや木陰のある遊歩道を利用したくなるような工夫や安全なルールづくりの活用できる取組み(ソフト面) ➢ 公園が持っている価値と公園に面して(接している)エリアの持つ価値や空間が、どう地域に関わってくるのか考えるべき。(立飛)(ソフト面)  ➢ 周辺市街地の規模感を把握し、周辺市街地の土地利用の受け皿としてどの程度活用できるか、現状の土地利用状況を把握する。	➢ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ➢ 現状の利用状況の把握や活用できる用地などを探索する地域のまちあるきを行う。 	● みどりの拠点として自然環境を維持・保全 ● 街路樹や沿道宅地等のみどりで構成する「みどりの回廊」の確保	● 周辺市街地の再編 跡地と周辺市街地の境界部分における各種規制・誘導手法の検討 ● 周辺市街地における環境づくり 景観や緑の新たなネットワークを形成する地区等の検討や空間づくりに向けた手法、実現性に関する検討 ● 跡地と周辺市街地にまたがる生活圏の形成 周辺市街地から利用しやすい公園・緑地等の配置の在り方に関する検討
コミュニティ形成 ➢ 旧字単位の住民コミュニティを普天間飛行場跡地のまちも含めて継続していきたい。	➢ 共に同じ活動(イベント)を通して共通のビジョンを浸透させていくことが必要(立飛)(ソフト面) ➢ 地域内外のバランスのよい情報発信の仕方が課題(UDCK)(ソフト面)	➢ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ➢ 現状の利用状況の把握や活用できる用地などを探索する地域のまちあるきを行う。 ➢ 公共空地を活用した 賑わい創出に向けたイベントの実証実験を行う。		
訪れたい拠点形成 ➢ 近隣市町村や市内の各種資源(中城城跡、普天満宮など)との連携 ➢ 交通結節点(インダストリアルコリドー地区)との連携	➢ ただ散歩だけのために訪れるなどで利用する場所があることで、周辺からの来訪者も増え、地元愛につながる。(立飛)(ソフト面) ➢ ヒルズ通り、いすのき通りと跡地中央エリアの商業地と連携し、人の流れを生み出す工夫(ソフト面) ➢ 周辺市街地における現状の人の流れや車の流れを把握(ソフト面) 	➢ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ➢ 公共空地を活用した 賑わい創出に向けたイベントの実証実験を行う。 ➢ バス乗車体験し、バスを降りたくなる空間のポイント探しを行う。	● 広域的な交通施策の動向を踏まえながら、交通結節点としての機能導入 ● 誰にとっても居心地がよく歩きたくなる環境が整備、まちなかを回遊できる市街地環境の整備・改善 ● 来訪者の利便性向上を図るため、新たな駐車場システムの構築や駐車場施設の整備検討	● 中南部都市圏の動向を踏まえた周辺市街地との効果的な役割分担 集客圏域等を意識した適切な機能導入の連携
道路交通ネットワーク ➢ 周辺のまちの道路渋滞解消に繋がるような、跡地内の道路整備がなされるとよい(地権者) ➢ 既存の道路ネットワークと普天間飛行場跡地内道路ネットワークへスムーズなつながりがあるとよい。	➢ 新しい道路を整備しても渋滞が考えられるため、自転車道や公共交通を利用するシステムが必要(地権者意見交換会)(ハード・ソフト面)	➢ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ➢ 新たな公共交通の在り方を考える上で、バス乗車体験で何が課題かを体感する。	● 基幹バスシステムとの連携等による公共交通の利便性向上	● 周辺市街地における幹線道路の整備 周辺市街地整備から見た道路構造・ルートの選定 ● 周辺市街地における供給処理施設等の整備 周辺市街地における都市基盤技術等の展開

「周辺市街地との連携」に関する若手の会の考え				
周辺市街地との連携の要素	今から考えられること	今から取組めること	他の計画との整合	計画内容の具体化との関連性
環境に配慮した交通 ➢ 公共交通を利用する習慣が周辺市街地にも広まると良い。 ➢ フェンス沿いのサイクリングロード等で、自転車等利用が促進されると良い。 	➢ トランジットモールを実施するとともに周辺各所に駐車を配置し、公共交通機関や自転車の活用により中心地の交通量、騒音の軽減等の工夫（ハード・ソフト面） ➢ サイクリングロード等の活用の動機付けとして運動促進を促す意味で運動の効能を県・市挙げてアピールしていく取組み。（ソフト面） ➢ 自転車の安全講習を受講した人だけが走ることができるなどの仕組み。（ソフト面） ➢ 市内を周遊するバスを今から導入して、どの程度利用するか、どこを結ぶと良いのか、計画人口などを踏まえて採算性等も考慮しながら利便性の高さを認識してもらえるような工夫。バスを降りたくなるような空間の創出。（ハード・ソフト面） 	➢ 【共通事項】合意形成を円滑にするため跡地利用計画内容について発信する。 ➢ 駐車場と一体となった市民農園を整備し、地産地消型の都市農業の実現に向けた取組み ➢ Ex)今帰仁村 ディスカバー農山漁村の会、浦添ではピパーツの活用を行っている。公共空地の利活用手法や、都市農業等の検討を進めていくうえで参考事例の視察会。 ➢ 新たな公共交通の在り方を考える上で、実際にバスに乗り何が課題かを体感する。 ➢ バス乗車体験し、バスを降りたくなる空間のポイント探しを行う。 	● 新たな駐車場システムの構築 ● 誰にとっても居心地がよく歩きたくなる環境が整備、まちなかを回遊できる市街地環境の整備・改善 ● 多様なモビリティマネジメント事業の展開 ● 自動車レーンの設置、シェアサイクルの推進及びサイクルポートの設置拡大	● 周辺市街地における供給処理施設等の整備 周辺市街地における都市基盤技術等の展開
跡地利用を核とした賑わいの創出 ➢ 基地跡地のまちで生み出す経済効果が周辺地域に波及し、商業・業務が潤うとよい。	➢ 民間企業が施設を建築すると、どれ位客を囲い込めるかに注目しがちであるが、自身はよくても周辺の波及はあまりないことが多い。施設区域との境界部の店舗前の共用部に椅子やテーブルを意識的に配置し、周辺市街地との一体性を創出している。（立飛）（ソフト面）	➢ 【共通事項】合意形成を円滑にするため跡地利用計画内容について発信する。 ➢ 公共空地を活用した 賑わい創出に向けたイベントの実証実験を行う。	● 誰にとっても居心地がよく歩きたくなる環境が整備、まちなかを回遊できる市街地環境の整備・改善	● 周辺市街地の再編 周辺市街地から跡地に向けた既存施設の移転立地意向が高まることが想定されるため、跡地では移転先となる用地を供給し、周辺市街地では跡地を活用した移転元の市街地の再編等を促進
国際学園都市として魅力向上 ➢ 普天間飛行場周辺には、沖縄国際大学や琉球大学医学部、キリスト教学院大学があることから様々な分野の学術交流が図れる。普天間飛行場跡地のまちづくりを行うことで、教育環境の充実に繋がりファミリー層への魅力向上が図られる。	➢ 外部からのアドバイザーではなく、地元の各大学からの有識者の知見を活かして、誰かが主導してまとめるというよりフラットに座組を作り、皆で情報を持ち寄って組み立てていくと雰囲気ができた。（UDCK）（ソフト面）	➢ 【共通事項】合意形成を円滑にするため跡地利用計画内容について発信する。 ➢ 国連平和大学、国立自然史博物館の誘致の可能性とについて、周辺市街地への情報発信を行う。 ➢ 周辺大学生との連携を図り学生との意見交換会。 	● 安心して子育てができるまちづくり ● 国際学園都市機能の拡充に資する研究・学術機能の誘導を促進	● 中南部都市圏の動向を踏まえた周辺市街地との効果的な役割分担 集客圏域等を意識した適切な機能導入の連携

4) 若手の会の会則作成

定例会の意見を踏まえて、今後の会則作成の視点を取りまとめ、定例会で共有を図った。

●会則作成の視点

若手の会は、20年間継続的に、普天間飛行場の跡地利用を考える取組みなど、その組織力や活動内容は高く評価されている。

一方、参加メンバーの固定化が進み、参加者に過度な負担が生じたり、参加者の少なさから活動への適切な評価がされなくなる懸念がある。

こうした参加者の負担をやわらげたり、活動がより適切に評価されるためには、参加者を増やす取組みが重要であるが、「地権者個々」に声かけしても、なかなか参加につながらないことや、継続的な参加にならないことや、個人的すぎる意見が出る懸念もある。

このため、地主会（組織体）を通して、継続的に参加者を増やす仕組み・取組みの可能性を検討する。

5) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●若手の会の考える「周辺市街地との連携」について

- ・「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」と周辺の都市マスタープラン、緑の基本計画の関連性を示し、次年度の活動に繋がる、若手の会としての考えを取りまとめることができた。

●新規会員の獲得について

- ・今年度も主に web 会議での定例会開催であったが、昨年に引き続き新規会員が3名定例会に参加した。

●既存会員の掘り起こしについて

- ・本業務における「まちづくり講座」への呼びかけを会員に対して行ったところ、定例会に参加しなくなっていた会員の姿も見られた。

●若手の会の会則作成について

- ・会則作成について、結成20年の節目に改めて会の在り方について定例会参加者で意見交換を行い、若手の会としての組織の考え方が把握できた。

【今後の課題】

●会員の掘り起こし

- ・web 会議での開催のために参加しなくなった方も一定数存在する。今後も引き続き、既存・新規を問わず会員の掘り起こしを行い、定例会の参加人数を増やすとともに次世代に繋いでいくための取組みについて、継続して検討する必要がある。

●次世代に繋いでいくための取組み

- ・今後の若手の会の定例会の持ち方、過去に若手の会会員であった方の習得されている知識をどう継承していくかなど、若手の会の活動を次世代に繋げていくための取組み内容について若手の会として検討を進めていく必要がある。

●若手の会の会則作成について

- ・今後も継続した活動に繋げるためには、社会的な組織として会則は必要となることから、会の意見を反映した会則を作成する支援を継続して行う必要がある。

●地主会との連携強化

- ・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

(2) 地権者意見交換会の企画・開催

1) 開催概要

普天間飛行場の地権者に対し、今年度の若手の会の活動や普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組み内容等について情報発信及び意見交換を行い、普天間飛行場跡地利用への関心を高めることを目的として計3回開催した。また、地主会役員としての意向を踏まえた上での地権者意見交換会とするため、地主会役員等を対象とした意見交換会を実施した。

2) 地主会役員等との意見交換会の実施概要

○開催日：令和4年10月24日（月）15：00～16：00

○内 容：（1）普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組状況等について
（2）質疑応答
（3）普天間飛行場の跡地を考える若手の会について
（4）意見交換

3) 主な意見（地主会役員等との意見交換会）

意見	説明にあったように地権者アンケートも先細りでなかなか回答が集まらなくなっている。重要なのは人を集めることである。この調子だとまた同じようになり参加者が集まらないのではと危惧している。例えば人の集め方について、今まで通りに行うのか、違う形で案内文を送るのかその辺の考えはどうか。
意見	地料も重要だとは思いますが、その前に相続の話とか土地活用方法とか専門家とかも含めて考えないといけないと感じた。
意見	様々な意見を吸収したいので個々で感じることを意見交換できればと思っている。
意見	悔いを残さないまちづくり、100年後住みよい立派なまちができたと言われるのが私たちみんなの願望である。

4) 実施概要（地権者意見交換会）

○開催日：令和4年11月24日（木）午後・夕方、27日（日）午後

○内 容：（1）普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組状況等について
1）「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」について
・プロモーションビデオの放映
2）普天間飛行場跡地利用計画最近の主な取組状況について
（2）質疑応答
（3）普天間飛行場の跡地を考える若手の会について
・活動の紹介
・検討内容の報告(令和3・4年度)
（4）小グループに分かれての意見交換

表：「地権者意見交換会」の開催日時、会場、参加者数

回数	開催日時	会場	参加者数
第1回	11月24日(木) 14:00~15:30	宜野湾市役所多目的会議室	20名 (2名)
第2回	11月24日(木) 19:00~20:30	宜野湾市役所多目的会議室	10名 (4名)
第3回	11月27日(日) 14:00~15:30	宜野湾市役所多目的会議室	28名 (4名)
合計			58名 (10名)

※（参加者数について）上段：参加者総数

下段：参加者総数の内、若手の会からの参加者



写真：地権者意見交換会の様子①



写真：地権者意見交換会の様子②

5) 主な意見と回答

①第1回目

周辺市街地の整備について
・市道11号線の整備を進める。
配置方針図について
・すてきな計画だと感じる。所有地を提供してもよいと感じた。しかし、損してまでは提供はできない。
大規模公園について
・公園の名称には「平和」という言葉を入れたい。 ・維持管理することまで考えることが大切。 ・国営にして、地主の負担を減らす。
道路について
・横断道路は橋脚を立てて立体的に造り、土地利用の分断を防ぐ。
緑の中のまちについて
・将来的に人口減少傾向にあるなか、住居のニーズはあるのか疑問である。 ・緑の中には、サッカー場等も含まれるのか。
その他
・小中高校でもっと跡地について考えてもらう機会をつくってほしい。

②第2回目

跡地利用の関心について
・基地の中に自由に出入りができれば、実際に見せて関心をひけるのではないか。(西普天間住宅地区を見せるのも、ひとつの手法) ・土地活用の方法を示してほしい。 ・子供達が体験できる緑の空間があればよい。 ・今日、跡地利用計画の検討がなされているという事(内容含め)を初めて知った。
大規模公園について
・「みどりの中のまち」という考え方は、非常に良いと思う。 ・国営公園を目指すのは良いが、財政難の中、どこまで維持管理できるのか疑問。 ・緑の中のまちづくりには賛成である。住んでいる街に緑が多くあることはとても良い。 ・道路や公園が汚い。100haの公園の管理ができるのか。 ・緑は心が落ち着くので必要だと思っているが、子供の世代で緑を必要だと思ってくれるのか。

道路について
・新しい道路をつくっても渋滞が考えられる。自転車道や公共交通を利用するシステムも必要だと思う。
その他
・地料で生活している人も多い。国に賃貸できる方法があれば、土地の活用方法も広がるのでは。 ・早く子ども世代に説明できる配置方針図を示してほしい。 ・良い計画だとは思いますが、生計の中心を地料で賄っている地主もいるため、地主が損しないような土地利用を考えていければよい。

③第3回目

緑の中のまちづくり
・住みやすいまちとは公園、緑、水があるまちだと思う。 ・緑の中のまちづくり大賛成です。いこいの市民パークはいつも人気がある。 ・緑をたくさん設けることで共有財産として利用できる。(個別で庭を設ける必要がなくなる) ・芝生を多くしてほしい。広々とした空間(木は少なくともよい)

周辺市街地の整備について
・西海岸エリアも一緒に開発していくべき。跡地と西海岸エリアの連携が必要である。 ・西海岸トロピカルビーチやラグナガーデン等とバス等を連携していく必要がある。 ・普天間飛行場跡地に隣接している部分において、道路や上下水道等インフラが整備されていない地域等は、土地区画整理事業の区域に入れることも考えられる。 ・普天間飛行場返還後、周辺(森川公園等)はどのような恩恵を受ける事になるのか。 ・普天間飛行場に隣接している森川公園を活用・整備してはどうか。

産業振興について
・働く場をどう考えているか。シンガポールを目指してほしい。 ・モノレール駅(浦西)や、海など周辺のメリット(資源)を活かすことを考える。 ・人が集まらないといけない。 ・大学を呼び込むと学生が集まり、ITなど産業も入ってくる。 ・シンボリックな構造物をつくる。 ・産業がなくても、人が来るアイデアも考える。

その他
・沖縄の個性を活かす海、ビーチ等の観光も意識してはどうか。 ・土地の価値が上がった場合、売る人は良いが住みたい人は固定資産税が上がり損する。ただ、価値が上がれば人が集まるのでは。

6) アンケートと調査結果

問 1. 本日の内容について

(1) プロモーションビデオの内容

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 理解できた	13	33.3%
2. まあまあ理解できた	20	51.3%
3. 少し難しかった	5	12.8%
4. 難しすぎた	1	2.6%
5. その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	39	100.0%

(2) 普天間飛行場跡地利用計画の最近の主な取組状況

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 理解できた	10	25.6%
2. まあまあ理解できた	22	56.4%
3. 少し難しかった	3	7.7%
4. 難しすぎた	0	0.0%
5. その他	0	0.0%
無回答	4	10.3%
計	39	100.0%

内容について「理解できた」、「まあまあ理解できた」と回答した割合がアンケート回答者の8割を超えていることから、これまでの跡地利用に関する県市の取組みや考え方・方針について概ね理解されていると考えられる。

問 2. 地権者意見交換会の時間について

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 長かった	2	5.1%
2. ふつう	31	79.5%
3. 短かった	3	7.7%
無回答	3	7.7%
計	39	100.0%

時間が「短かった」という回答が3件あった。今年度は全体で最長90分の時間を設けた意見交換会であったが、まだ話し足りないという参加者の意向が読み取れる。

問 3. 今後の意見交換会や情報誌ふるさと、ホームページを通じて知らせてほしい情報はありますか。
(複数回答)

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 跡地利用計画の検討について	26	66.7%
2. 地権者・市民に対する跡地のまちづくりへの関心向上に向けた取組み	17	43.6%
3. 土地活用の手法について	18	46.2%
4. 基地内の自然環境、文化財等の情報	11	28.2%
5. その他	2	5.1%
無回答	1	2.6%
計	75	—

問 4. 普天間飛行場跡地利用に関する最新情報は、年2回発行される「ふるさと」で発信されています(郵送)が、掲載されている情報は、理解できる内容ですか。

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1. 理解できた	20	51.3%
2. どちらとも言えない	10	25.6%
3. 難しすぎた	0	0.0%
4. みたことがない・知らない	7	18.0%
5. その他	2	5.1%
無回答	0	0.0%
計	39	100%

【自由意見】

- ・アンケートの回収率が落ちている。関心が薄れて来ているのではないか。何か対策はないか。
- ・住宅地の緑地は個人の管理か、その場合そこに住みたいと思うのか。(維持管理大変)
- ・若者が少ないと感じた。私は30歳になるが自分より年配の方が将来に向けて真摯に考えて意見を出し合っている部分がとても良い。自分達のことになるだろう若い人がもう少し参加できると政治への参加も自然と増えるのではないかと考えた。利用についてはとても良いと思う。全自動運転で周回するような近未来がイメージできると返還後の希望が持てると感じる。
- ・普天間飛行場の周辺を1周道路として活用し、その周辺へのアクセスを検討してほしい。
- ・土地の先行取得については、特別控除も含めて現状となるべく乖離しないようにお願いしたい。
- ・相続などで初めて地主になる場合、分からないことが多い。地主新人用のセミナーなどあれば活用してみたい。
- ・計画が案でもないよりは良いと思う。未来の子供たちに緑の土地を残してほしいと思う。地権者の土地料

が不利にならないような方針も考えていただきたい。緑の用地の管理・維持費用も国へ提言できるよう案を作っても良いかと思う。

- 地権者の土地活用意向の回収率があまりにも低すぎると思う。更に多くの地権者を巻き込んで意見を収集して方向性を検討していく必要があると思う。
- 今後もっと関心を持ちたいと思う。
- 今後、毎回参加する。
- 他の方の意見を聞いて勉強になった。

7) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●意見を引き出しやすい雰囲気づくりについて

- ・若手の会の自らが、地権者側の検討組織として活動を行なっていることを紹介し、その後の意見交換でも会員自らが進行を行った事で、参加者から意見を引き出しやすい雰囲気を作り出す事ができ、活発な意見交換となった。

●新たな参加者の取込みについて

- ・会場を地域の公民館等に分けずに、市役所のみに絞った事により、初参加者が例年よりも比較的多い意見交換会となり、新たな参加者を取込む事ができた。

●参加しやすい開催日時等について

- ・これまで、平日は夜間、休日は午後からの開催を行ってきたが、新たな参加者を呼び込み、より多くの地権者に対して跡地利用計画に対する興味を喚起するためにも、平日昼間の開催を行った結果、夜間よりも参加者数が多くなったことから、今後開催するうえでの参考となった。

【今後の課題】

●跡地利用計画に対する興味・関心の更なる向上

- ・地権者の意向醸成を進め、普天間飛行場返還後の円滑な跡地利用を促進するため、今後も継続して地権者意見交換会を開催し、より多くの地権者へ跡地利用計画に対する興味・関心を喚起し、意見等を引き出す必要がある。

●継続した参加を促すための工夫

- ・将来的に跡地利用計画の内容について深い知識を習得した地権者を増やしていくためにも、毎年度継続して参加しようと思えるような取組みや意見交換のテーマ設定等、検討していく必要がある。

(3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発送

1) 取組み概要

跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」を作成し、発行した。

また、地主会未加入者も含めて、全体計画の中間取りまとめ（第2回）の概要の周知を図るとともに、今年度実施した地権者意見交換会やまちづくり座談会の概要報告等を行った。

2) 情報発信の内容

回 数	発送時期	主な掲載内容
第 55 号	令和4年 11 月	○告知事項 ・地権者意見交換会開催のお知らせ ・若手の会の活動内容 ○報告事項 ・全体計画の中間取りまとめ（第2回）概要
第 56 号	令和5年 3 月	○報告事項 ・地権者意見交換会の概要報告 ・まちづくり講座（全2回）の概要報告 ・先進地視察会における先進地事例紹介

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●跡地利用等に関する情報発信について

- ・全地権者に対して跡地利用に関する行政・若手の会の取組みについての情報を発信する事ができた。
- ・跡地利用計画の内容については二次元バーコードを貼り付けて視聴できるようにすることで、ふるさと誌面だけでは量が多く伝わりづらい内容についても周知を図る工夫を行った。
- ・第2回まちづくり講座の講義のようすについては、撮影した動画を編集して二次元バーコードと URL リンクを追記することで、本誌で初めて講座の存在を知った方に対しても当日のようすや講座内容が理解できるよう工夫を行った。

【今後の課題】

●見やすさ及び分かりやすさの工夫について

- ・誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。
- ・誌面だけでは伝わりづらい内容については、動画を撮影してリンク先を記載するなど、誌面で伝える部分と動画で伝える部分を仕分けすることで、より効果的な情報誌になるよう継続する必要がある。

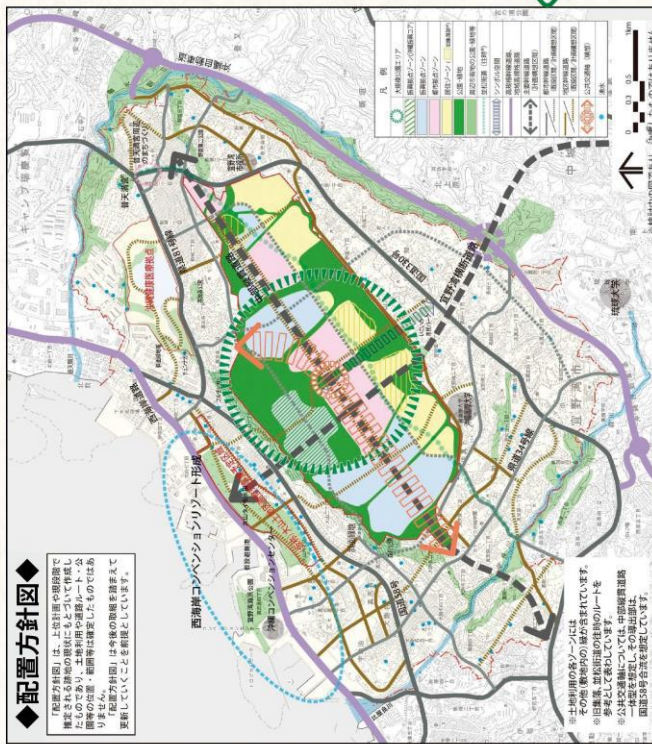
22

普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた 全体計画の中間取りまとめ(第2回)



宜野湾市HP

普天間飛行場の跡地利用について、沖縄県と宜野湾市の共同により「跡地利用計画」の策定に向けた中間取りまとめ(第2回)を、この「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」をもとに、県民、地権者等の皆さまのご意見を伺いながら、沖縄県全体の発展に資する跡地利用計画策定に繋げていきたいと考えております。



跡地の将来像

新しい都市像を実現するための取組を、計画づくりにおける跡地の将来像と新たに位置づけ、その実現に向けた各方針の具体化を推進します。さらに、中長期的視点をもって跡地利用に取り組み、時間が経過後でも変わらない拠点を描き、まちづくりの方向性として位置づけていきます。

跡地の将来像

世界に誇れる優れた環境の創造 ～みどり(歴史・緑・地形・水)の中のまちづくり～

揺るぎないまちづくりの方向性

- ① 広域な水と緑のネットワーク構造の形成
- ② 沖縄振興の舞台となる「みどりのまちづくり」
- ③ 環境の豊かさが持続するまちづくり

空間構成の方針

計画の前提となる活用すべき自然・歴史特性の配置を確認のうえ、要素別の配置方針を取りまとめ、それらを重ね合わせて配置方針図を作成しています。

【要素別の配置方針】

各要素を基に

緑地空間配置

- ▲自然・歴史特性の保全活用に向けた緑地空間の配置
- ▲緑地帯の拠点となる緑地空間の配置
- ▲緑地全体を網羅するネットワーク状の緑地空間の配置
- ▲周辺市街地からの利用に配慮した緑地空間の配置

土地利用ゾーン配置

- ▲緑と都市の融合した沖縄振興コアの配置
- ▲沖縄振興拠点や西海リゾートエリアと連携等に配慮した振興拠点ゾーンの配置
- ▲振興拠点ゾーンの配置
- ▲周辺市街地との地形的な連続性や宜野湾の歴史の気付きとして活用すること等を勘案した居住ゾーンの配置

交通網配置

- ▲主要幹線道路(中部幹線道路、宜野湾横断道路)のルート配置
- ▲緑地と周辺市街地にまたがる幹線道路(都市幹線道路、地区幹線道路)の配置
- ▲鉄軌道を含む新たな公共交通網の配置

みどりのまちづくりとは

今ある緑地を活かし、新しい緑地も増やして、跡地全体をみどりのまちの中にする計画です。緑地と都市がひとつになった大規模公園エリアがまちの中心に配置されています。

※公共として整備する緑地空間のほか、民用地でも緑地を確保し、跡地全体で緑をつくりだします。

大規模公園エリア

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.55(中面)

24

● 普天間飛行場跡地利用計画を考える
まちづくり講座(全2回)を開催しました!!

地権者や市民も一緒に、普天間飛行場跡地のまちづくりに取り組めるようまちづくり講座を開催しています。今年度は、「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすめ」をテーマとして、第1回を1月21日(土)、第2回を2月17日(金)に開催しましたので、概要をご報告いたします。

当日の動画(第2回)は、YouTubeに公開しておりますので、皆さまぜひご視聴ください。

第1回 まちあるき in きのわん

令和5年1月21日(土)開催

伊佐区周辺のまちを歩き、公共空間を活用した「今からできること」について、意見交換を行いました。



【ふんしんせき通りの活用】

- 四季折々でイベントを開催する。
- 平成4年に手づくり郷土賞受賞している通りである。ふんしんせき通りをPRし、観光客を呼び込みたい。
- フリーマーケット、マルシェの開催。

【伊佐児童公園の活用】

- イベントを開催する。グラントゴルフ大会などのイベントを開催する。近隣の住民も参加できるイベント(自治会活動)を開催することで、自治会加入につながる。
 - 空きスペースを活用し、児童キャンプ体験。(防災・自治につながる)
- 【その他】**
- 広い敷地でイベントを実施。まちのにぎわいを作りたい。(駐車場の活用)
 - ヤギや犬などの生き物を飼育し、子どもも楽しめる場づくり(ポケットパークの活用)
 - 軽便鉄道のことを地域のPRに活用する。

意見交換した結果は、視覚的に分かりやすく取りまとめを行いました。



第2回 フリースペースを活用した 賑わいの場づくり

令和5年2月17日(金)開催

【講師】 宋 俊煥 様 山口大学 大学院創成科学研究科 准教授

賑わいの場づくりとなる空間はどうつくるべきか、また、どのような取組を進めることが重要なのか、全国の事例や講師の実体験を踏まえと講演がなされ、参加者の皆さんと意見交換を行い、非常に活発な講座となりました。



(講義内容より) 賑わいの場をつくるためのポイント

1. 様々な団体が力を合わせ1つの事業をつくる。
 2. 地域の将来像づくりが重要である。
- 空間をいかにうまく活用するかにポイントで、エリアマネジメントが今後重要な役割を占めることになる。特に活動の見える化が重要であり、人が集まり話し合うきっかけとなる。また、応募者からイベントのプレイヤーへ引き上げる取組につながる。

当日のようすは、以下のURL又はQRコードからご視聴いただけます。
 URL : <https://www.youtube.com/watch?v=rqdb74VYOhU>



● 普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて
先進地視察を実施しました

若手の会と、ねたてのまちベネミスミューティング(以下、NBミーティング)の、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化を目的に、今回3年ぶりに先進地視察会を実施しました。

ここでは、今回の視察先のうち、まち全体の価値を高める取組を進めている「グリーンスプリングス(東京都立川市)」の事例について、ご紹介します。

グリーンスプリングス(東京都立川市)

立川市(東京都)の新興住宅地として、旧国営跡地(旧立川飛行場)に建てられた大規模複合施設です。

隣接する国営昭和記念公園の緑と街区内の緑を連続的に繋ぎあわせ、さらに歩道分譲の図られた広域緑地は、多くの市民の憩いの場になっています。目先の利益ではなく「空と大地と人につながる、ウェルビーイング」を軸に、まち全体の価値を高める取組を進めています。



【施設の特徴】

- ・デザインコンセプトは「町の縁側」
- ・空を大事にした開発を実施することで解放感のある空間が生まれており、24時間楽しめるまちとして極力24時間開放しています。
- ・照明にこだわったライトデザインで、昼と夜の印象が異なる施設をつくりあげています。
- ・国営昭和記念公園と連続した緑空間を構成して上質な空間を形成することで、まちの価値が上がっています。



▶ 右写真
 グリーンスプリングスと国営昭和記念公園

▼ 下写真
 かつてこの地にあった飛行場の「滑走路」をモチーフにしたカスケード(階段状スロープ)。(左は昼間、右は夜間)



図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.56(中面)